



令和6年度源流の森のオープンを飾るイベントが開催され多くのお客様が快晴の春の森で楽しめました。

ひとしづくの森

2024・5

春の号

発行・編集

山形県源流の森

飯豊町須郷 669-3

5月12日(日)、令和6年度の開園に合せ、多くの方に源流の森を知っていただくためのイベントを開催しました。アルプホルンのファンファーレで始まり、置賜総合支庁森林整備課山崎森づくり推進室長のご臨席を頂き、(公財)やまがた森林と緑の推進機構奥山参事が開会を宣言。また、式典では源流の森インタープリテーション協会前会長の舟山功さんが奥山現会長から功労表彰を受けました。

会場では森林案内、冒険の森、陶芸、木工クラフトの常設プログラムに加え、エア遊具やキノコ植菌、森林のゆうえんち、森の楽器コーナーを開設してお客様に楽しんでいただきました。また、物販や飲食を提供する森のマルシェが開店。さらに、開会式に併せて緑のプレゼントと緑の募金を行い身近な緑化推進の啓発活動も行いました。

昨年はあいにくの雨で参加者が少なかったのですが、今年は快晴の空に清々しい新緑が溢れ午後には汗ばむほどの好天でした。県内を中心に参加された親子には様々な体験にチャレンジし楽しく1日を過ごしていただきました。当日の会場延体験者数は800人でした。



楽しい森林のゆうえんち



秘密の裏道ツアー

全国的に有名になった白川湖の水没林を巡る秘密の裏道ツアーを連休中に開催し、県内外の参加者に水没林や中津川の魅力、源流の森の施設や活動内容について知ってもらいました。

近年TV、マスコミやSNSを通じて中津川の水没林は大人気になり、季節限定の幻想的な姿を一目見ようと全国から観光客が押し寄せ、連休中当館を含めた周辺での入場車両は5,000台以上となりました。当館にも4月から問い合わせが多く、そうした方々を対象に秘密の裏道ツアーを開催しました。当初1日20人限定でしたが申込みが多く1日50人を超える日もあり合計127人を案内しました。うち6割が県外のお客様でした。

ツアーでは熟練の源流の森インタープリターが水没林や中津川の自然について丁寧に解説。水際まで降りた参加者は思い思いにカメラを構え水没林の思い出を撮影されていました。また、併設した森のマルシェでは焼き芋やどんどん焼きが完売。多くの方に中津川の魅力や源流の森を満喫いただきました。

所長イッシーのネホダレ

えやえや、今年もにぎやかな季節になったごどなっし。水没林さ車どんどん来て東北関東はあたり前、中部北陸関西ナンバーも。なえだて遠くからござるもんだごど〜。

今年は雪少なくて暑くなるがったもんだがら季節の進み早くて、花は咲いたと思ったらあつという間に散るし、セミと夏鳥は待ちえらんにくて鳴くし。そうかと思うと急に寒くなっし。アナグマは子供なすし、サルどクマは相変わらず騒ぐし、なじよな年になんべ。

閑話休題。今年も関係各位のご協力を頂いて多くのお客様に楽しんでいただけるよう頑張りますので御最良のほどよろしく願いいたします。

(ネホダレは置賜語で寝言のこと)